

 **発生動向総覧**

<第17週コメント> 4月30日集計分

◆全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

※感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核322例

3類感染症

細菌性赤痢4例 菌種: *S. sonnei* (D群) 4例__感染地域: 東京都3例(小学校に関連した事例)、岡山県1例

腸管出血性大腸菌感染症33例(有症者15例、うちHUS 2例)
 感染地域: 国内33例
 国内の感染地域: 佐賀県8例、福岡県4例、山口県3例、千葉県2例、静岡県2例、北海道1例、宮城県1例、福島県1例、埼玉県1例、岐阜県1例、大阪府1例、和歌山県1例、鳥根県1例、岡山県1例、鹿児島県1例、不明4例

年齢群: 1歳(1例)、2歳(1例)、3歳(2例)、8歳(1例)、10代(6例)、20代(7例)、30代(4例)、40代(2例)、50代(3例)、60代(4例)、80代(2例)

血清型・毒素型: O26 VT1・VT2(7例)、O157 VT1・VT2(5例)、O26 VT1(4例)、O145 VT1・VT2(4例)、O111 VT1(3例)、O157 VT2(2例)、O91 VT1(1例)、O103 VT1(1例)、O124 VT1(1例)、O111 VT1・VT2(1例)、O157 VT1(1例)、その他・不明(3例)

累積報告数: 311例(有症者182例、うちHUS 14例、死亡なし)

パラチフス1例 感染地域: ミャンマー

4類感染症

E型肝炎3例 感染地域(感染源): 宮城県1例(不明)、千葉県1例(加熱不十分の豚肉)、国内(都道府県不明)1例(不明)

A型肝炎2例 感染地域: 東京都1例、国内(都道府県不明)1例

重症熱性血小板減少症候群1例
 感染地域: 広島県

年齢群: 80代

つつが虫病2例 感染地域: 宮城県1例、長野県1例

デング熱2例 感染地域: インドネシア2例

マラリア1例 熱帯熱__感染地域: カメルーン

レジオネラ症20例(肺炎型20例)

感染地域: 東京都2例、福岡県2例、北海道1例、秋田県1例、山形県1例、茨城県1例、埼玉県1例、石川県1例、静岡県1例、愛知県1例、三重県1例、大阪府1例、兵庫県1例、岡山県1例、徳島県1例、佐賀県1例、熊本県1例、国内(都道府県不明)1例

年齢群: 40代(1例)、50代(1例)、60代(3例)、70代(6例)、80代(8例)、90代(1例)

累積報告数: 342例

レプトスピラ症1例 感染地域: マレーシア__感染源: 水系感染(川)

5類感染症

アメーバ赤痢11例(腸管アメーバ症9例、腸管外アメーバ症2例)

感染地域: 東京都3例、埼玉県1例、広島県1例、国内(都道府県不明)2例、イタリア1例、パラオ1例、国外(国不明)1例、国内・国外不明1例

感染経路: 性的接触3例(異性間2例、異性間・同性間不明1例)、経口感染3例、不明5例

ウイルス性肝炎2例 B型2例__感染経路: 性的接触2例(異性間1例、同性間1例)

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例

菌検出検体: 喀痰7例、尿7例、血液4例、胆汁1例、喀痰/膿1例、その他・不明1例

菌種: *E. cloacae* 6例、*E. aerogenes* 5例、*E. coli* 2例、*K. pneumoniae* 2例、その他・不明6例

感染経路: 以前からの保菌10例、院内感染2例、手術部位1例、以前からの保菌/医療器具関連1例、その他・不明7例

急性脳炎5例 ロタウイルス1例__年齢群: 5歳

単純ヘルペスウイルス1例__年齢群: 60代

病原体不明3例__年齢群: 2歳(1例)、10代(2例)

クロイツフェルト・ヤコブ病5例

孤発性プリオン病古典型5例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例

年齢群: 40代(1例、死亡)、50代(1例)、70代(1例)

後天性免疫不全症候群14例(AIDS 3例、無症候9例、その他2例)

感染地域: 国内11例、中国1例、フィリピン1例、ベラルーシ1例

感染経路: 性的接触13例(異性間5例、同性間8例)、静注薬物使用1例

ジアルジア症2例 感染地域: 国内(都道府県不明)1例、インド1例

侵襲性インフルエンザ菌感染症6例(菌検出検体: 血液6例)

年齢群: 1歳(1例)、10代(1例)、60代(1例)、70代(2例)、80代(1例)

侵襲性肺炎球菌感染症32例(菌検出検体: 血液29例、血液/髄液2例、髄液1例)

年齢群: 0歳(2例)、1歳(2例)、3歳(3例)、4歳(1例)、40代(4例、うち2例死亡)、60代(7例)、70代(5例)、80代(6例)、90代(2例)

水痘(入院例に限る)3例(検査診断例1例、臨床診断例2例)

年齢群: 8歳(1例)、30代(1例)、50代(1例)

梅毒35例(早期顕症I期12例、早期顕症II期12例、晩期顕症1例、先天梅毒1例、無症候9例)

播種性クリプトコックス症1例

菌検出検体: 血液

感染地域: 岐阜県

年齢群: 80代

破傷風1例

年齢群: 20代

風しん7例(検査診断例6例、臨床診断例1例)

感染地域: 静岡県3例、東京都1例、兵庫県1例、福岡県1例、国内・国外不明1例

年齢群: 1歳(2例)、30～34歳(1例)、35～39歳(1例)、40代(2例)、50代(1例)

累積報告数: 65例(検査診断例50例、臨床診断例15例)

麻しん2例〔麻しん(検査診断例2例)〕

感染地域: 東京都1例、神奈川県1例

年齢群: 0歳(1例)、20～24歳(1例)

累積報告数: 16例〔麻しん(検査診断例12例、臨床診断例2例)、修飾麻しん2例〕

薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

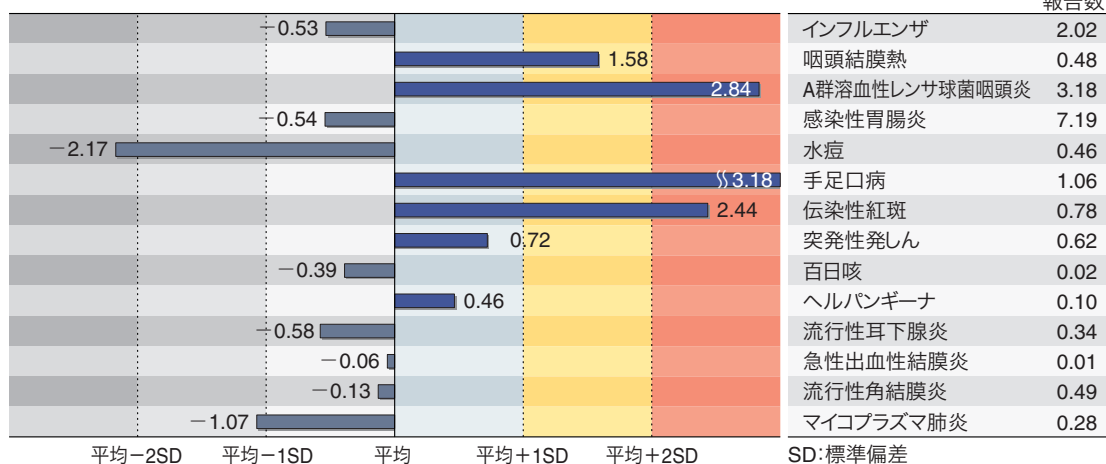
菌検出検体: 喀痰

(補) 2014年第17週から2015年第16週までに診断されたものの報告遅れとして、E型肝炎1例(感染地域: 東京都__感染源: 不明)、チクングニア熱1例(感染地域: ニュージーランド)、デング熱1例(感染地域: ブラジル)、日本紅斑熱4例(感染地域: 長崎県4例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症10例(菌種: *E. aerogenes* 4例、*K. pneumoniae* 3例、*E. cloacae* 2例、その他1例)、急性脳炎2例(インフルエンザウイルスA型1例__年齢群: 4歳、ライノウイルス1例__年齢群: 0歳)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例〔年齢群: 20代(1例)、60代(1例、死亡)〕、水痘(入院例に限る)5例〔年齢群: 6歳(1例)、30代(2例)、40代(1例)、70代(1例)〕、播種性クリプトコックス症2例〔感染地域: 大阪府1例、鳥取県1例__年齢群: 40代(1例)、60代(1例)〕、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子型: 不明__菌検出検体: 尿)などの報告があった。

◆定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です(増減の目安は小数点第3位以下を含む)。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第17週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

インフルエンザ

定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(7.88)、山形県(5.65)、岩手県(4.06)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は72例と前週と比較して減少した。都道府県別では31都道府県から報告があり、年齢別では0歳(5例)、1～9歳(25例)、10代(3例)、20代(2例)、30代(3例)、40代(1例)、50代(1例)、60代(8例)、70代(11例)、80歳以上(13例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの)

RSウイルス感染症の報告数は704例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は宮崎県(1.58)、島根県(1.39)、山形県(1.13)である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(6.57)、新潟県(5.95)、鳥取県(5.95)、静岡県(4.64)である。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は大分県(15.33)、福井県(13.91)、宮崎県(11.58)である。

水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位2位は富山県(0.97)、宮崎県(0.97)、大分県(0.67)である。

手足口病の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は島根県(4.26)、鳥取県(4.16)、佐賀県(3.04)である。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は滋賀県(2.13)、福島県(1.67)、埼玉県(1.49)である。

百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位2位は大分県(0.17)、新潟県(0.07)、高知県(0.07)である。

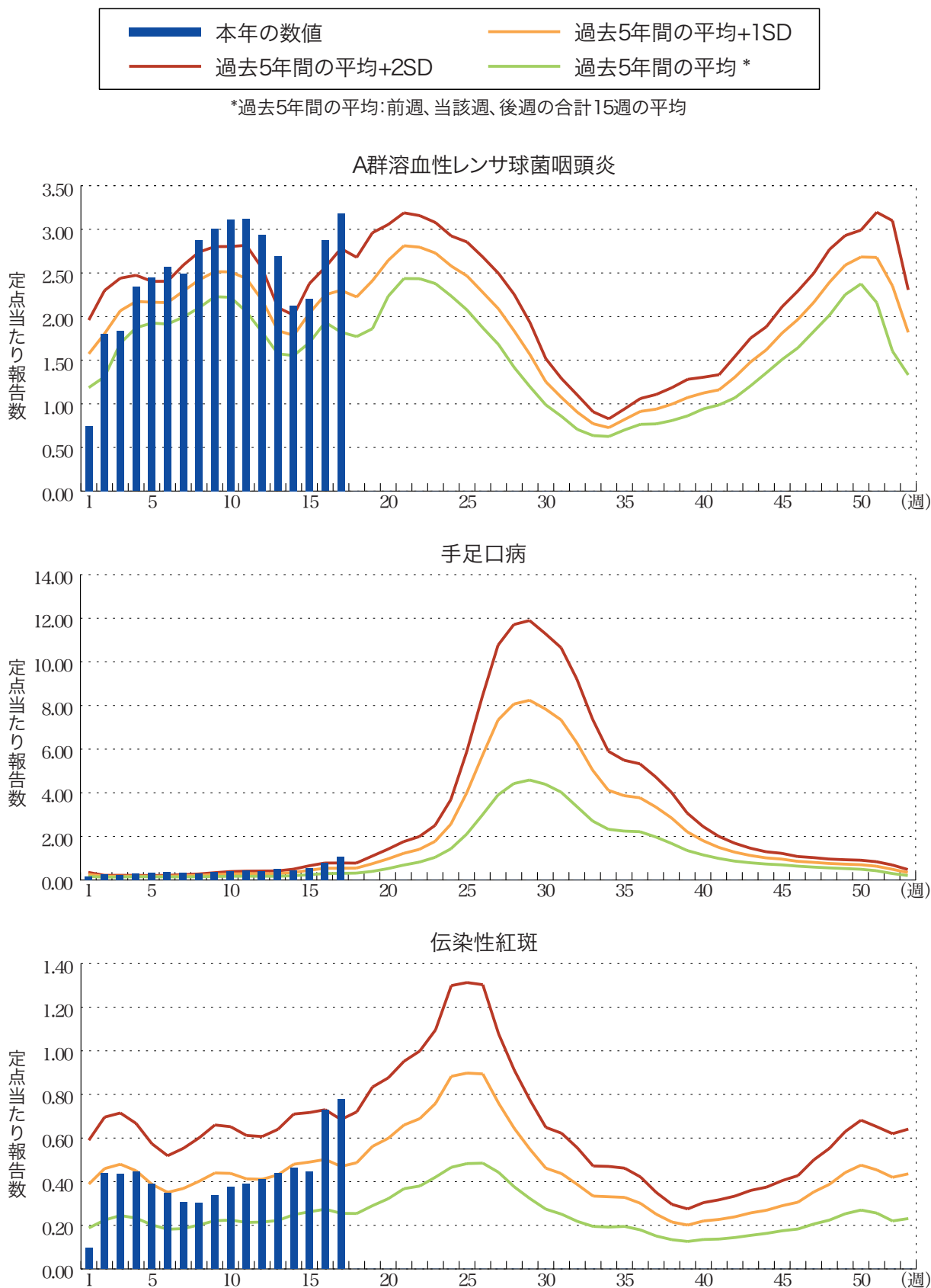
基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は富山県(1.80)、香川県(1.20)、秋田県(0.88)である。

感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は増加した。40都道府県から251例報告があり、年齢別では0歳(32例)、1～4歳(176例)、5～9歳(34例)、10代(6例)、50代(1例)、70歳以上(2例)であった。

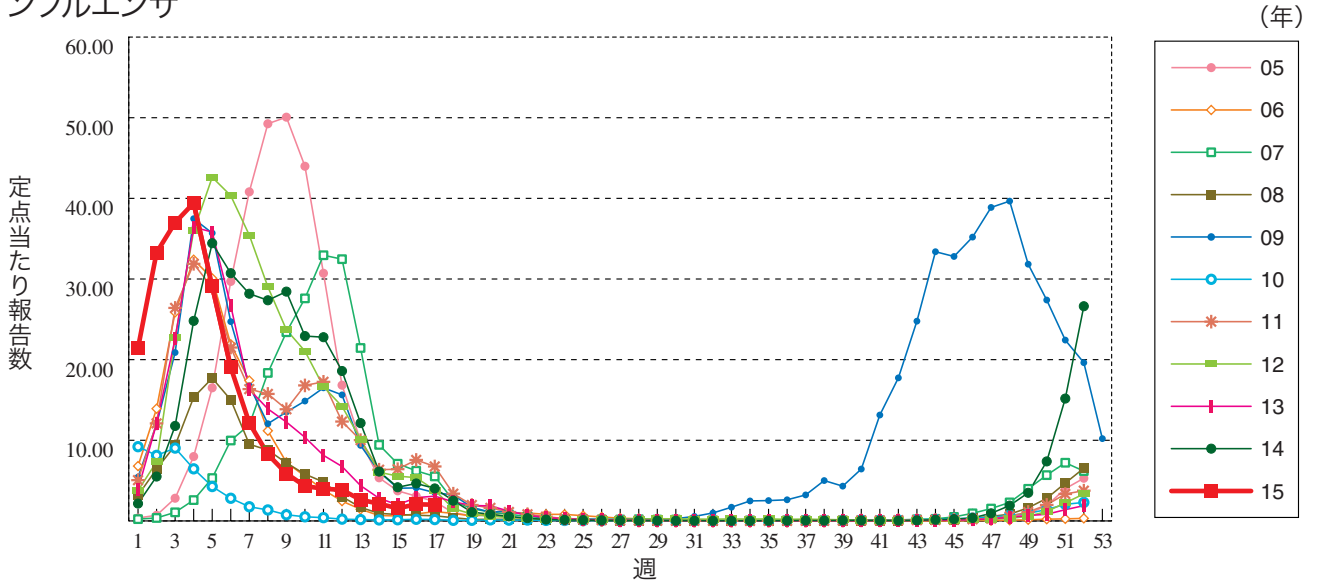
図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2015年第17週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。

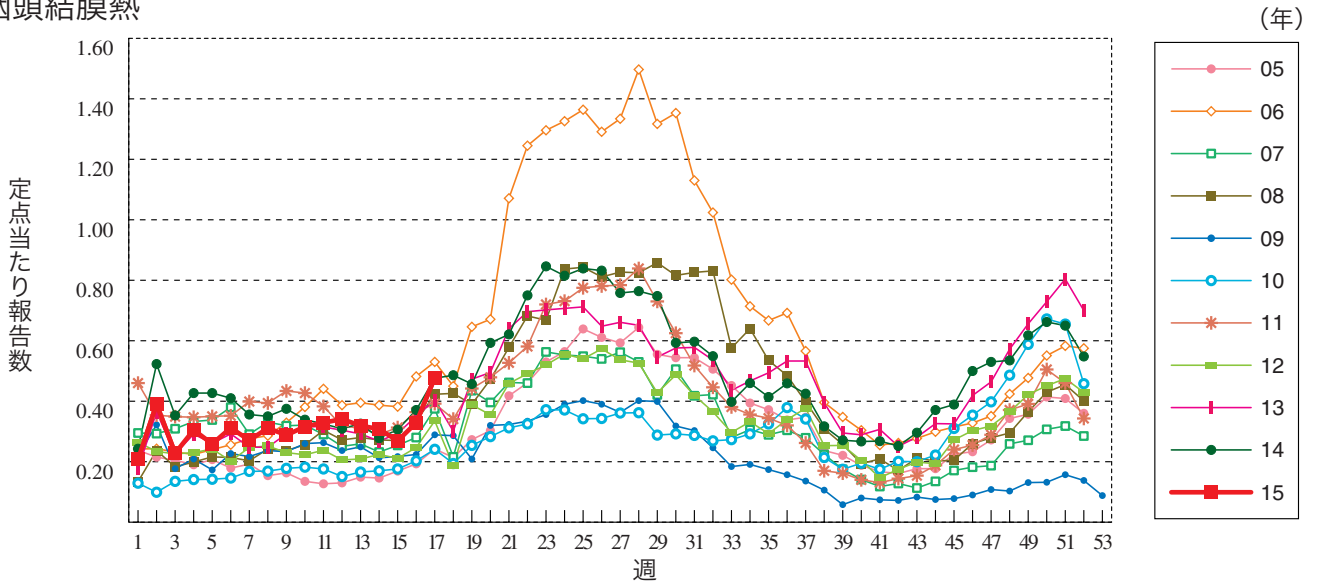


グラフ総覧 (17週)

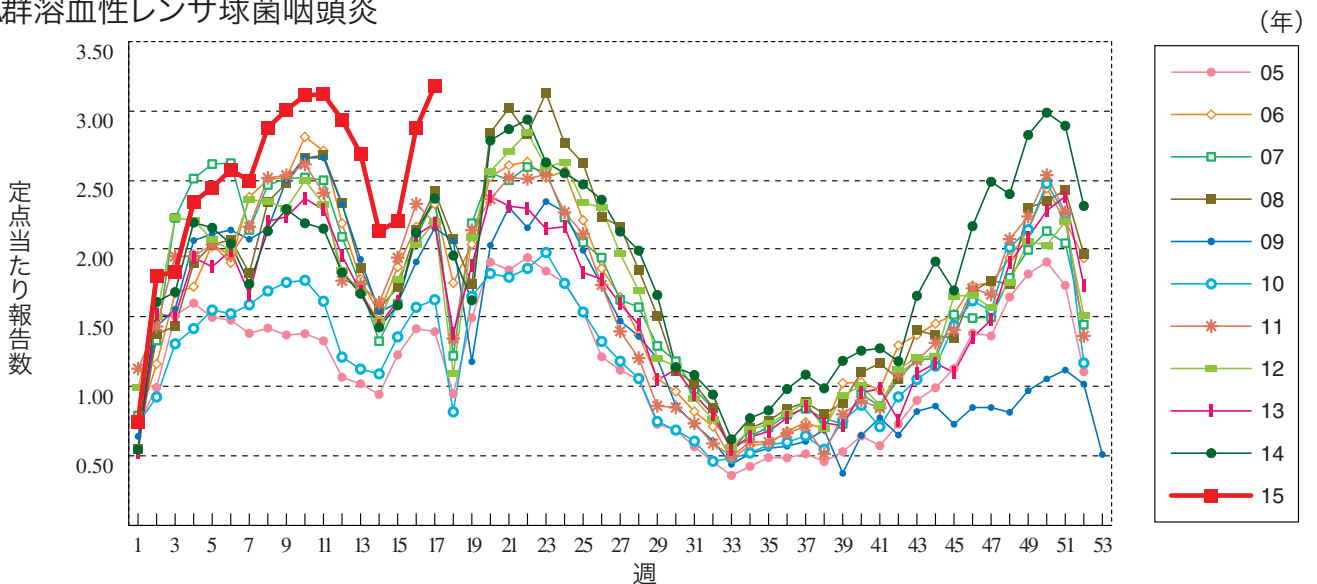
インフルエンザ



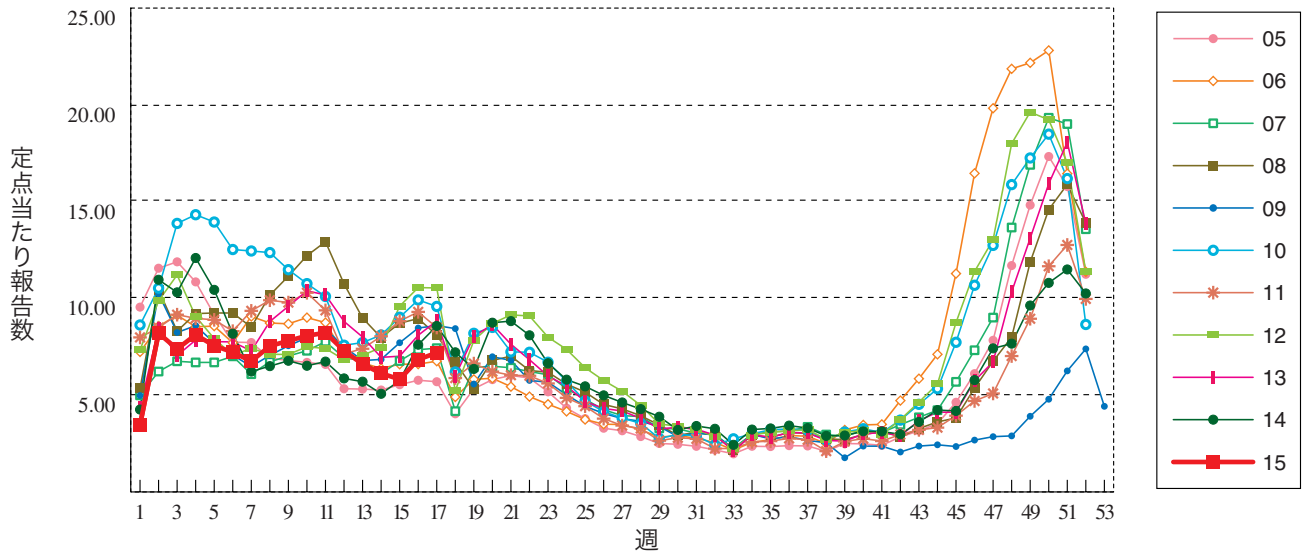
咽頭結膜熱



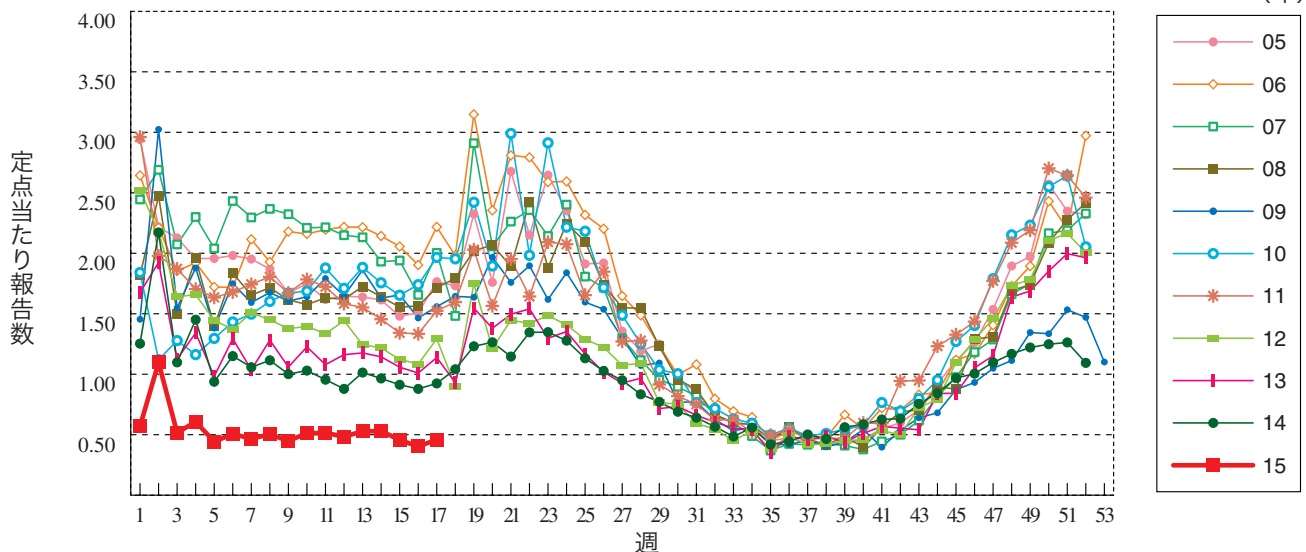
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



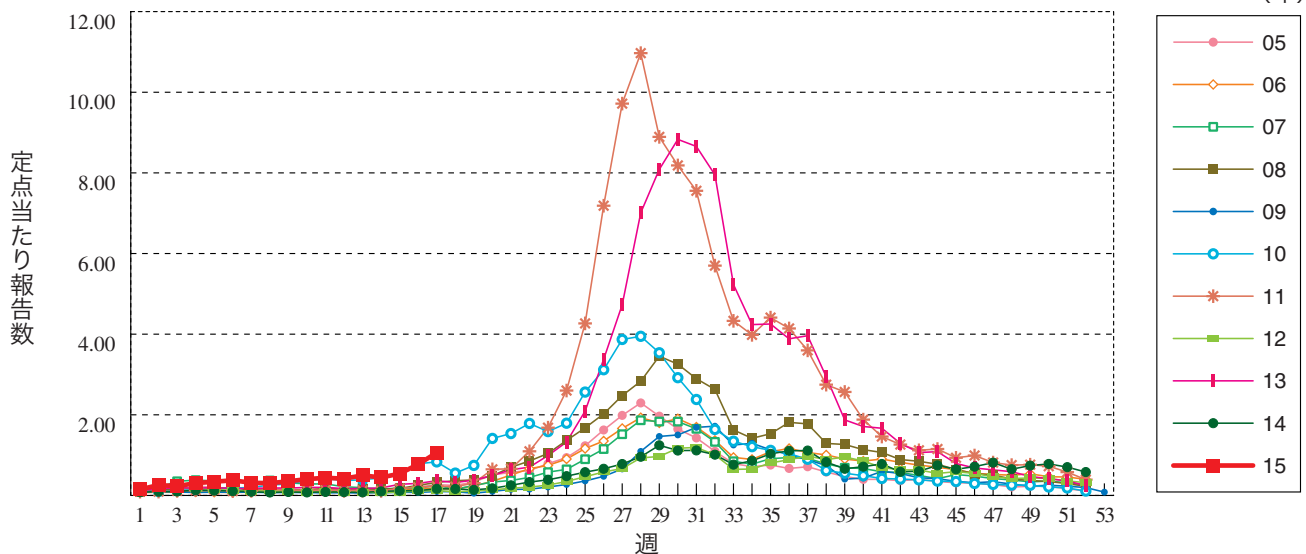
感染性胃腸炎



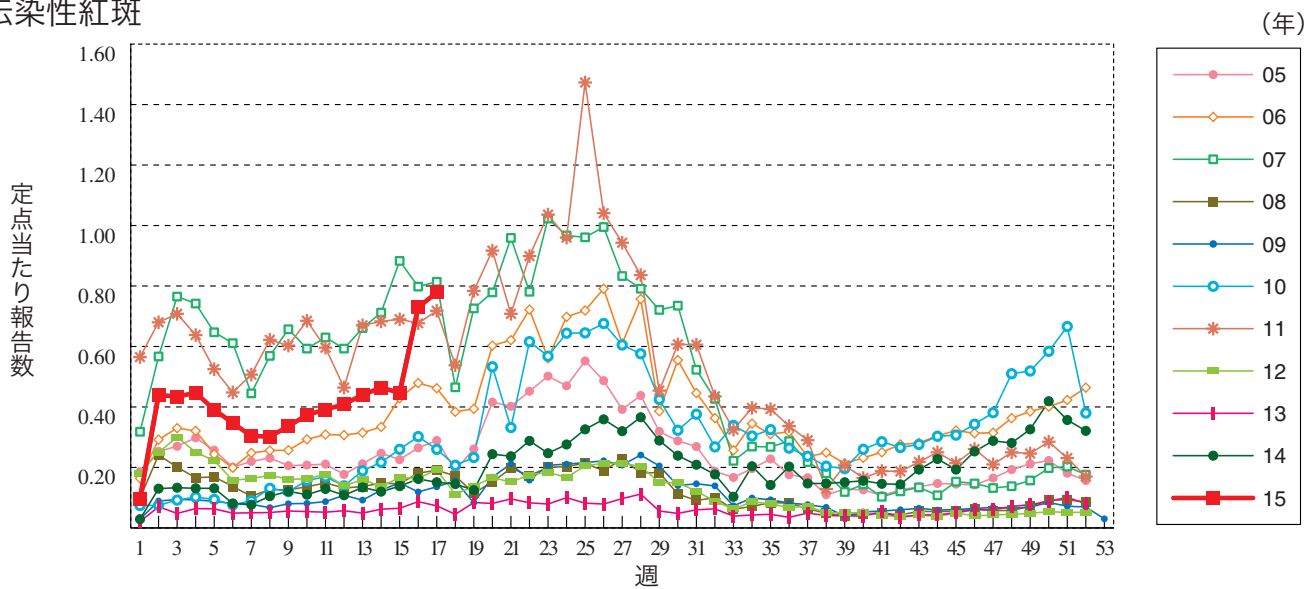
水痘



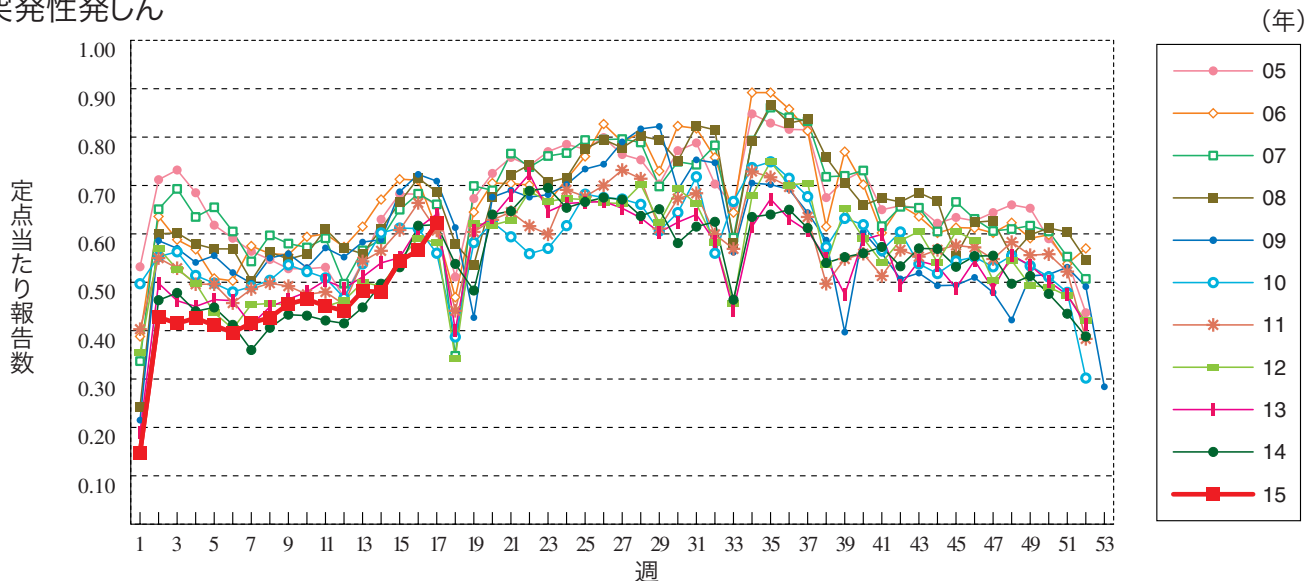
手足口病



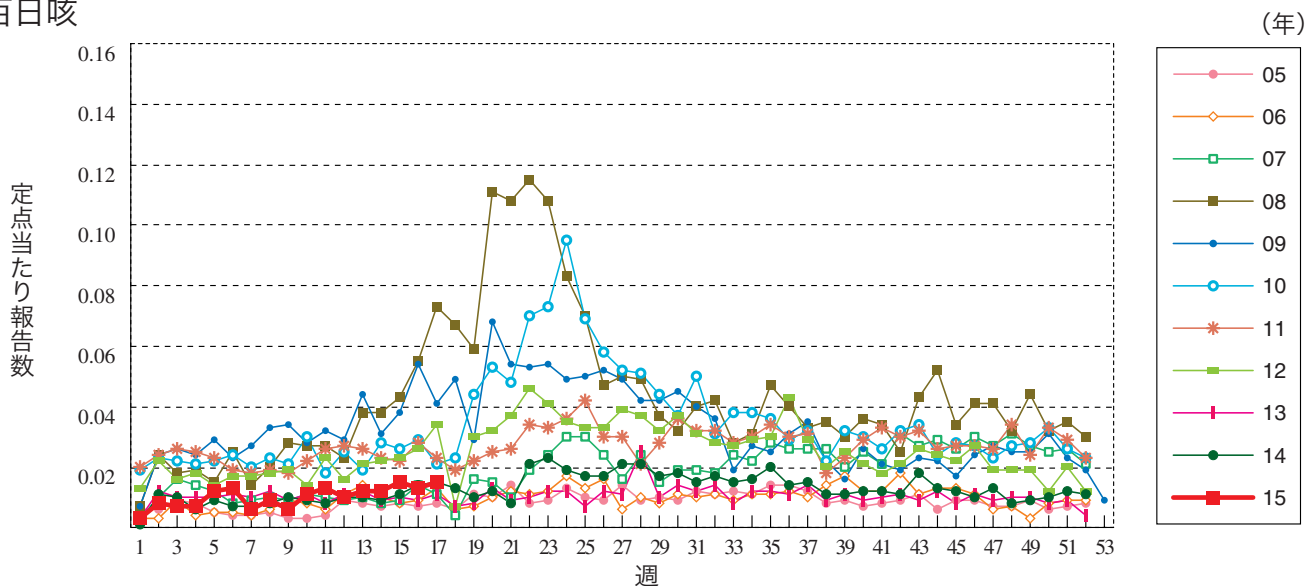
伝染性紅斑



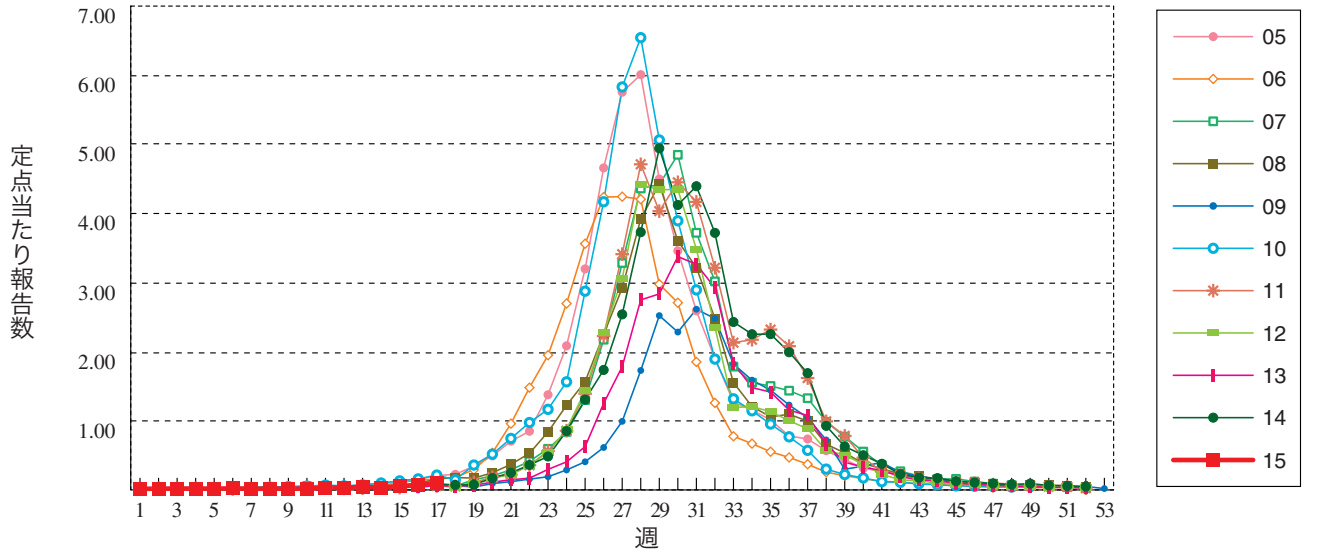
突発性発しん



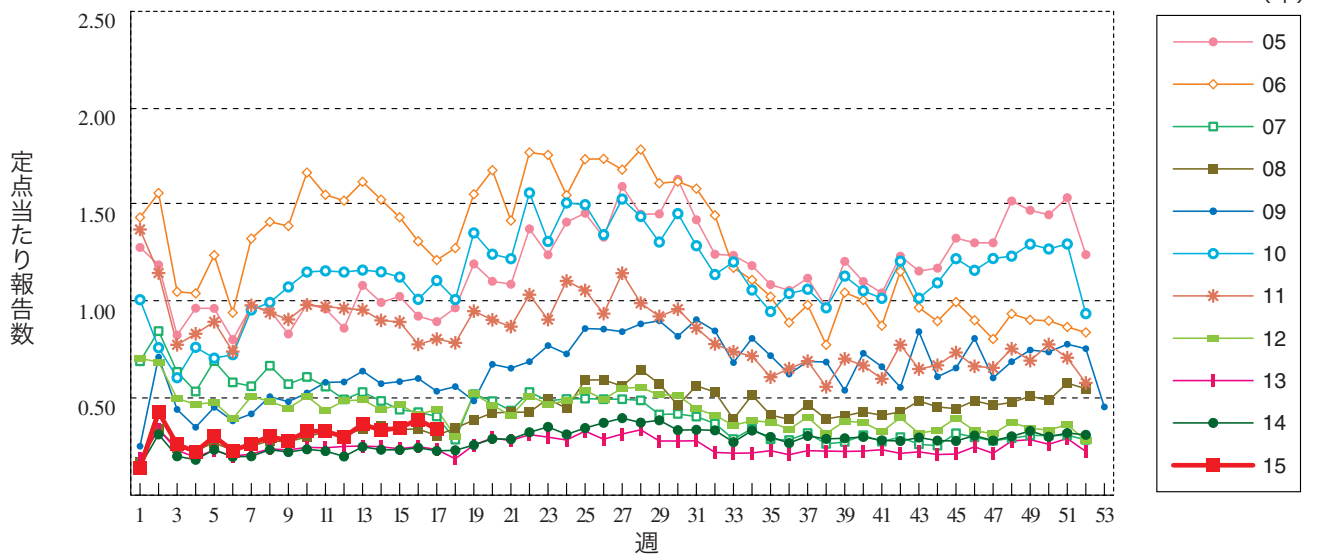
百日咳



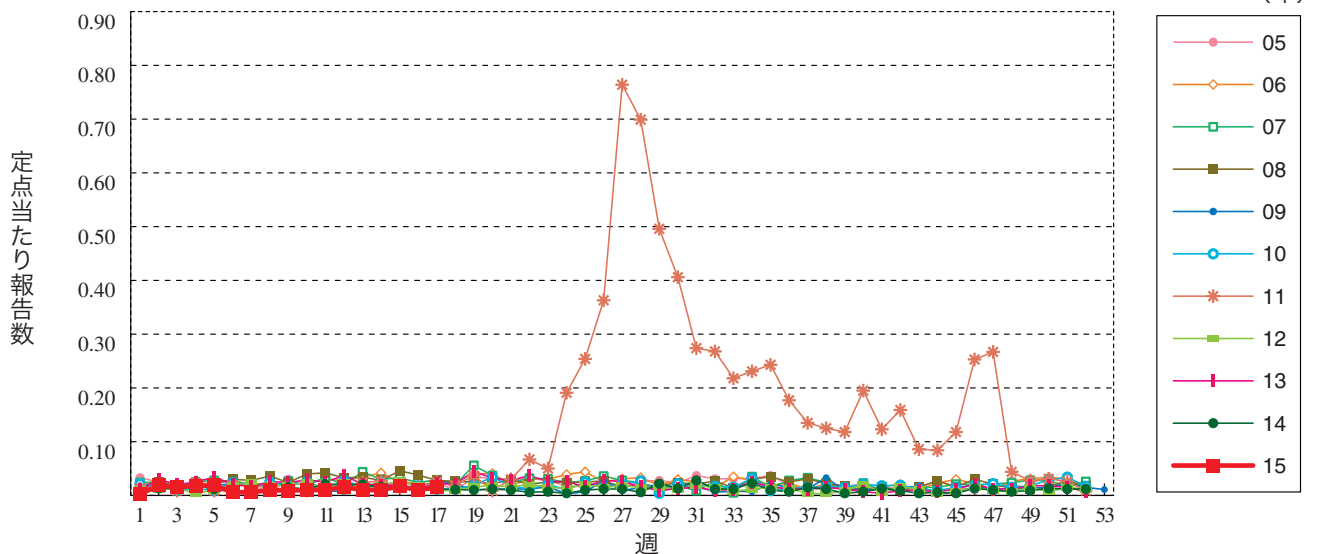
ヘルパンギーナ



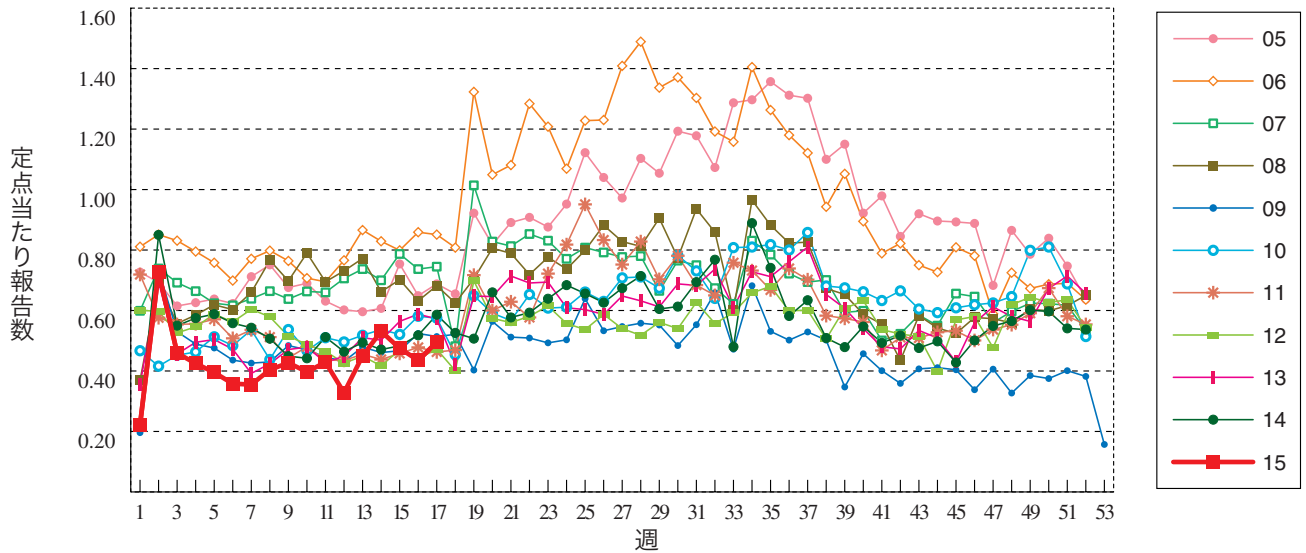
流行性耳下腺炎



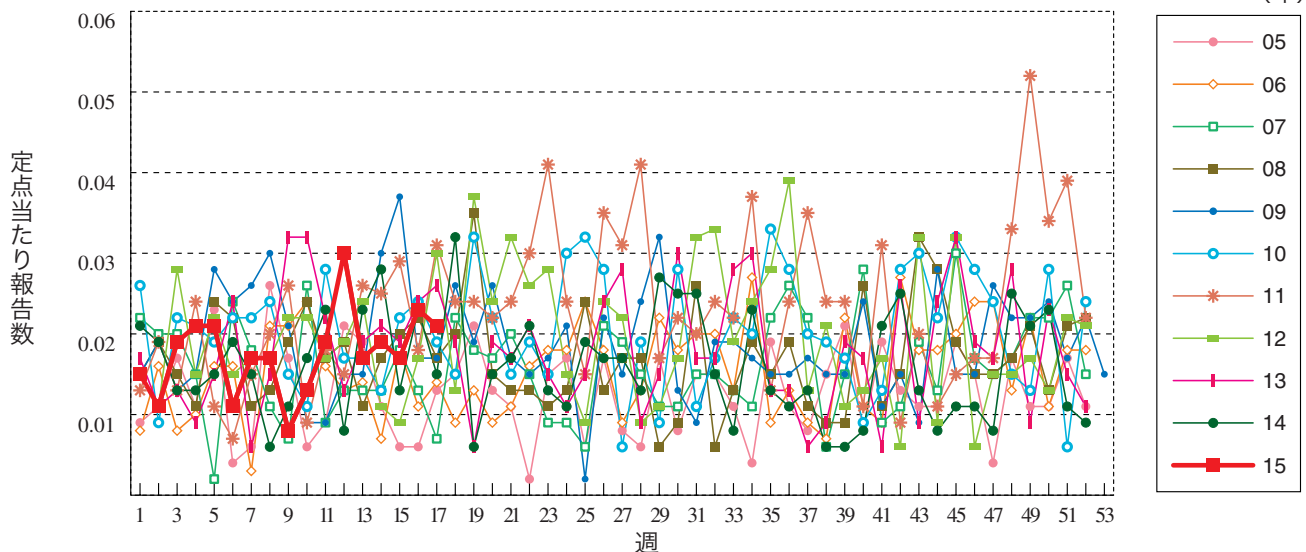
急性出血性結膜炎



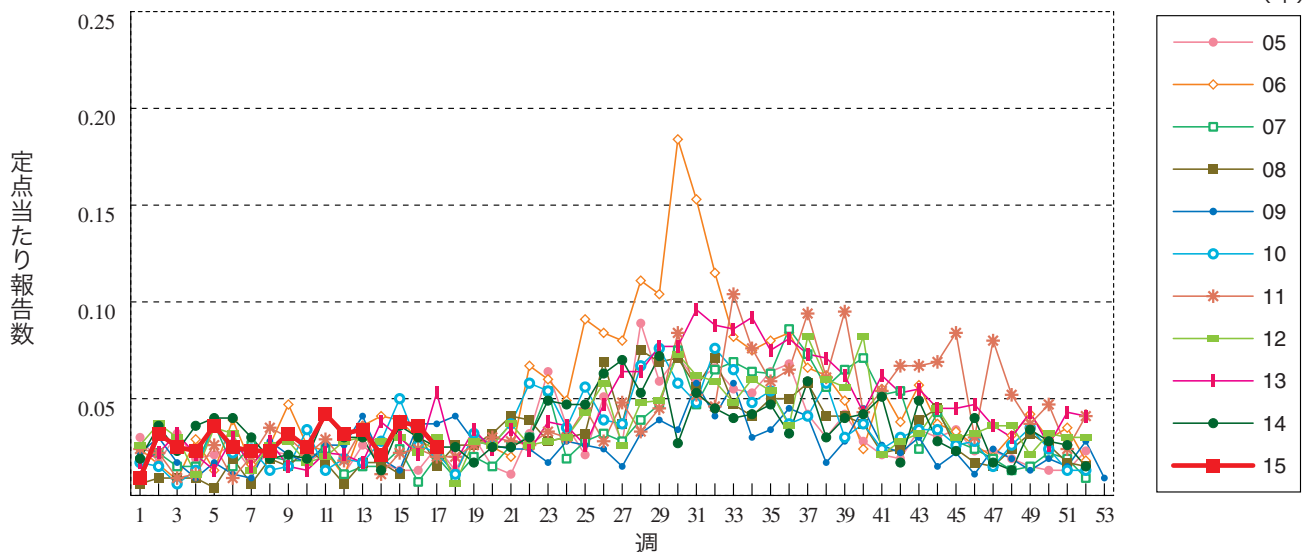
流行性角結膜炎



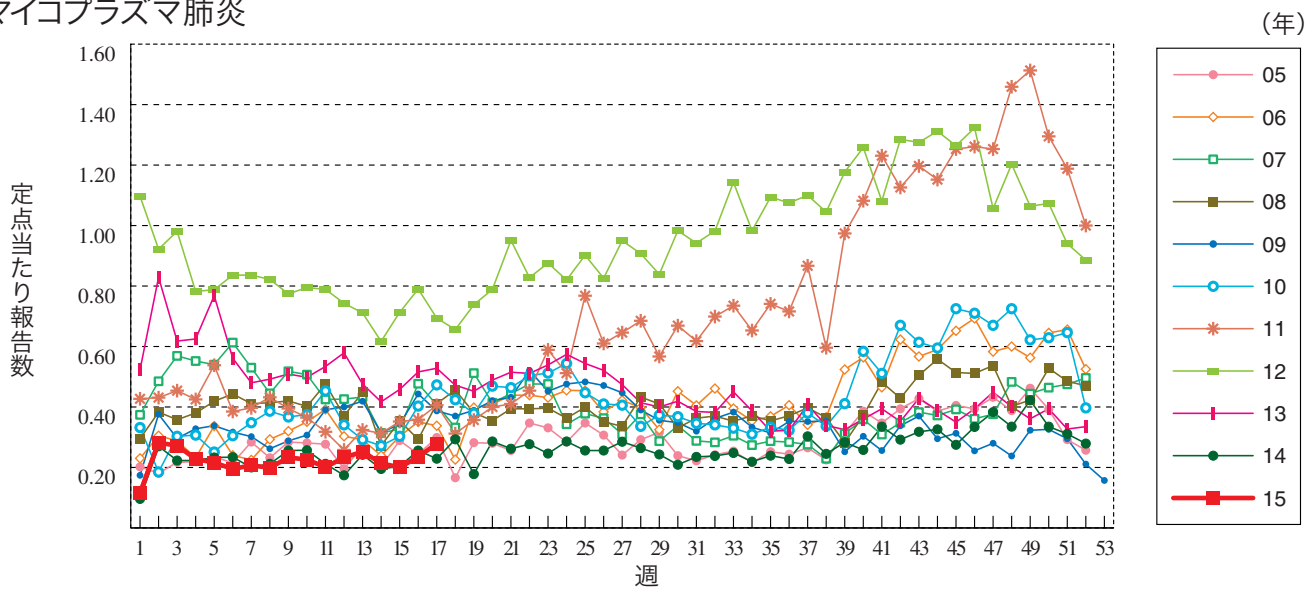
細菌性髄膜炎



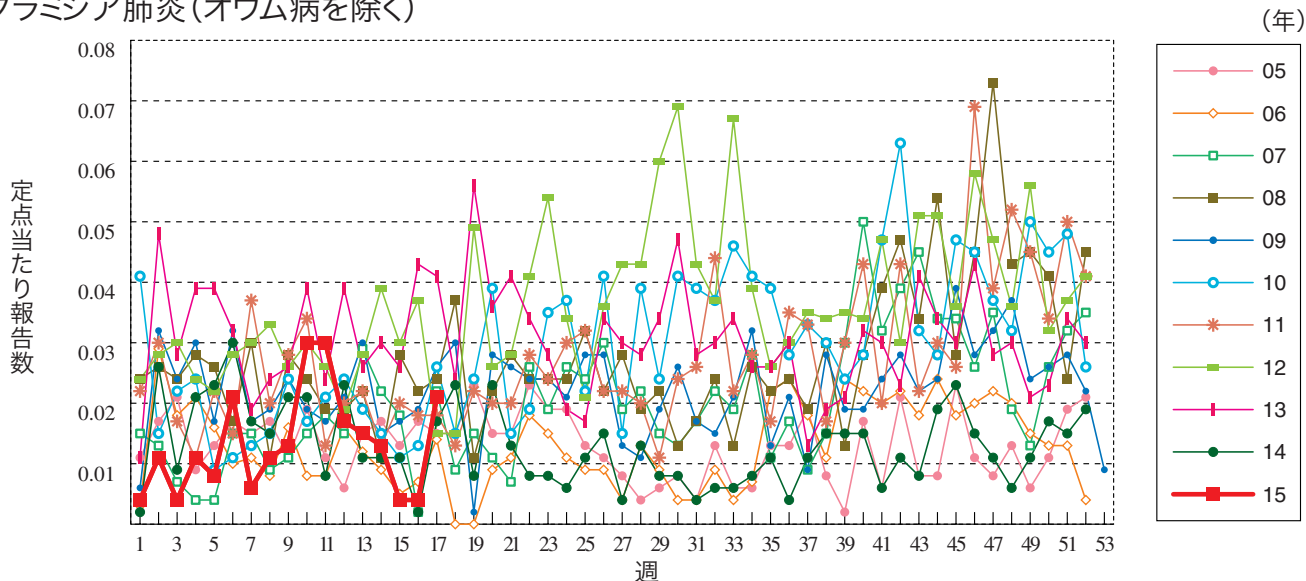
無菌性髄膜炎



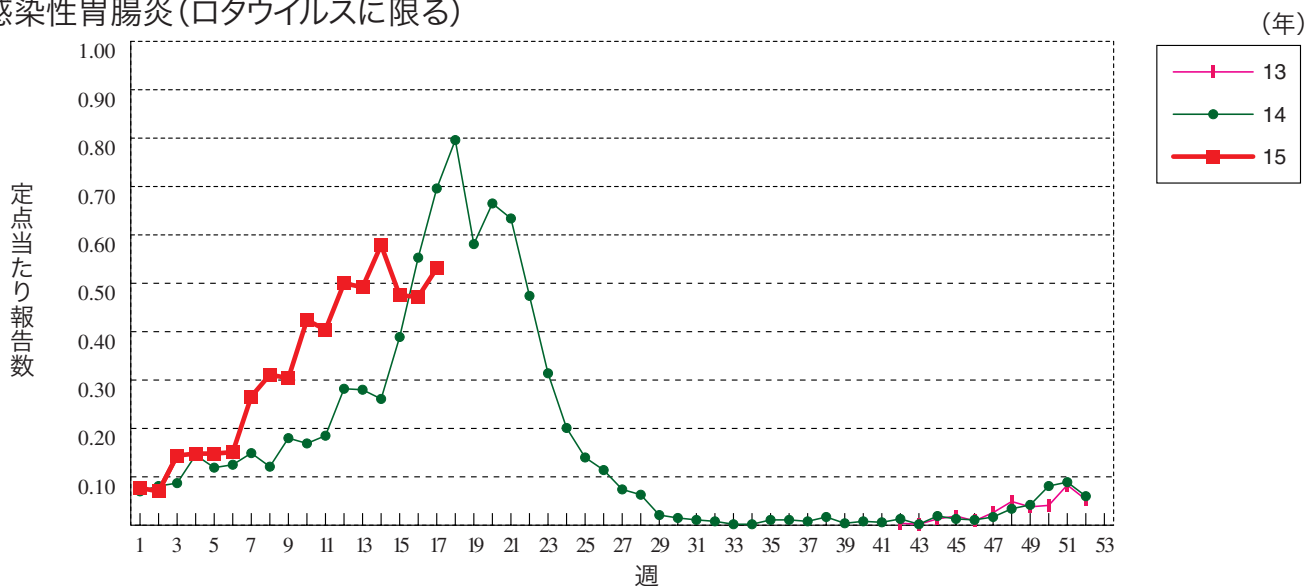
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)



RSウイルス感染症 ※定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。

